

家畜衛生広報



ながの

長野家畜保健衛生所
北信家畜畜産物衛生指導協会
〒380-0944 長野市安茂里米村1993
Tel 026-226-0923 Facs. 026-227-2665
E-mail:nagakachiku@pref.nagano.lg.jp

本年度のみつばち腐蛆病検査について

～御協力有り難うございました～

本年度計画していましたみつばち腐蛆病検査は、12月をもって全て終了しました。飼養者の皆様には、検査への立会い等ご協力ありがとうございました。

本年度の検査結果については下表のとおりでした。

地 域	実施蜂場数	実施群数	健康群数	腐蛆病発生群数
全県		18,709群	18,666群	43群
うち 長野家保管内	159蜂場	4,581群	4,555群	6蜂場26群

当所管内は、県下でも多く発生し、昨年と比較しても1戸2群から6戸26群に増加しました。 今年の採蜜に向けて蜂群管理をしっかりと行って下さい。

腐蛆病とは

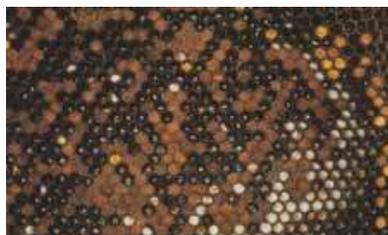
腐蛆病菌(細菌)が原因となる病気で、家畜伝染病予防法の法定伝染病に指定されており、次の2種類があります。

★アメリカ腐蛆病

- ・感染後死亡した幼虫はすぐに巢外に出されるため、巢房が空になる。
- ・耐過した幼虫は、巢房に蓋をし、さなぎになる間に死亡して腐蛆になる。
- ・腐蛆は独特の臭いがあり、幼虫が溶けて液状(褐色、粘着性)を呈する。

★ヨーロッパ腐蛆病

- ・幼虫は巢房に蓋をする前に死亡して、無蓋巢房内に死亡幼虫がみられる。
- ・腐蛆は溶解せず、粘着性なし。特徴的な発酵臭と酸臭がある。



左:アメリカ腐蛆病(糸を引く蜂児)

右:ヨーロッパ腐蛆病(蜂児が様々な状態で死亡)

アメリカ腐蛆病予防薬 タイラン水溶散について

アメリカ腐蛆病の新たな予防薬としてタイラン水溶散が認証されましたので、適正使用による腐蛆病対策の徹底をお願いします。



しあわせ信州創造プラン(長野県総合5か年計画)推進中



2018信州総文祭
大会マスコットキャラクター
信州なび助

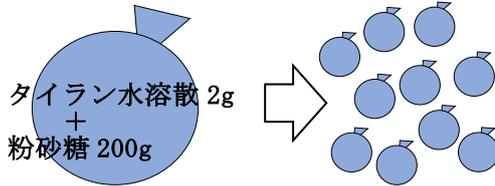
蜜蜂用医薬品は使用基準を守り、正しく使いましょう

アメリカ腐蝕病の予防にタイラン水溶散の使用が承認されました

主成分	タイロシン酒石酸塩
適応症	アメリカ腐蝕病の予防
休薬期間	食用に供する蜂蜜及びその他の生産物の <u>生産前28日間</u>
用法用量	育児箱1箱(成虫として概ね4万匹)当たり、タイロシン200mg(力価)、粉砂糖20gを均一に加え、週1回、3週間投与

※少ない重量を量るのは難しいため、10箱分をまとめて計量することをすすめます

- タイラン水溶散2gと粉砂糖200gをよく混合して10等分する(ただちに使用)



- 育児箱 1 箱につき、1 回 1 包を 3 週間投与する(巣枠の上)



* 次の量を目安に購入し、用法用量に基づき適正に使用するようになしてください。

(有効期間は 3 年)

市販されているタイラン水溶散は、現在のところ、100 g ボトルのみです。

100 g ボトルで

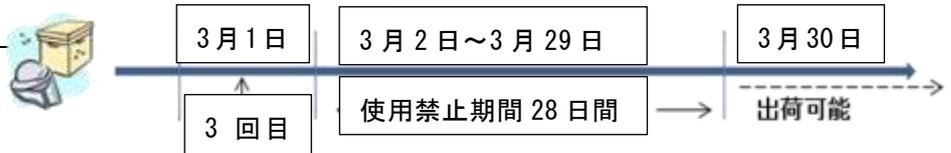
100 g ボトル + 20kg 粉砂糖 → 投与 500 回分 → **約 166 育児箱** の予防が可能

○現在、蜜蜂に使用できる医薬品は以下の 4 製剤です。

アメリカ腐蝕病予防薬：タイラン水溶散、みつばち用アピテン
ヘギイタダニ駆除剤：日農アピスタン、アピパール

○「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律」(旧薬事法)では、
○使用基準(使用方法、使用量、使用禁止期間など)を守って使用すること
○未承認動物用医薬品(個人製造や輸入)の使用禁止
が定められています。出荷した蜂蜜に医薬品が残留基準値を超えて残留すると、回収・廃棄の対象となる場合があります。

注 使用禁止期間又は休薬期間が「食用に供する蜂蜜及びその他の生産物の生産前28日間」であるタイラン水溶散の3回目を3月1日に使用した場合、食用として出荷できるのは3月30日から蓄えられたものとなります。



○医薬品を使用したら、使用記録を付けて保管しましょう。

<記録する内容>

- ① 医薬品名、② 使用年月日、③ 使用した群(数、場所)、④ 使用方法・使用量、⑤ 出荷可能日

<参考> 腐蛆病以外のおもな蜜蜂の病気

名称	症 状	予防
<p>パロア病 (ミツバチヘギイタダニ感染症)</p> <p>届出 伝染病</p>	<p>・蜂児は体液を吸われて、成長不全や小型化、羽・肢の伸張が不全なみつばち(奇形蜂)がでる。 ・本ダニの寄生が多くなると、蜂児やサナギの「死に籠もり」が出る。 ・ダニが巣房の蓋を破って外に出るとき開いた穴がふそ病の小孔と類似</p>  <p>矢印:みつばちの腹部節間に入り込んだミツバチヘギイタダニ</p>	<p>ダニ駆除剤: 「アピスタン」。</p> <p>用法を誤ると、薬剤耐性のダニが出現するので、注意が必要。</p>
<p>チヨーク病</p> <p>届出 伝染病</p> <p>原因:カビ (<i>Ascospaera apis</i>)</p>	<p>・3~4日齢の幼虫が、カビの胞子に感染。 ・蜂児は、白色または黒褐色をしたミイラ状になって死亡するので診断は容易。 ・巣門前や、巣房内にミイラ化した個体が散見される。 ・みつばちの活動が低下し、巣箱内の換気が悪くなると発症しやすい。 ・カビの胞子は環境に比較的長期間生存するので、一度発生した蜂場は、再発しやすい。</p> 	<p>巣箱の換気に注意し、蜂群を強性に保つことで、本病はほとんど防げる。</p>
<p>ノゼマ病</p> <p>届出 伝染病</p> <p>原因: ノゼマ原虫</p>	<p>・重度に感染すると、糞詰まり、腹部膨満、飛行不能となり、巣門周辺を徘徊する。 ・感染群では、下痢による巣箱の異常な汚れ。 ・感染蜂は寿命が半減。</p>	<p>・換気や巣箱の設置場所の環境に注意 ・衛生管理を徹底し、蜂群を強勢に保つ</p>
<p>アカリダニ症</p> <p>届出 伝染病</p> <p>原因:ミツバチ気管ダニ</p>	<p>・原因ダニが気管内に寄生。 ・羽化後4日以内の成蜂にのみ感染。 ・重傷の場合、腹部が腫れて飛行不能となり、巣門から這い出して死亡。 ・病蜂の頭部と胸部を引っ張ってちぎると、腹部の気管が不規則な斑点で黒ずんで汚れている。</p> 	<p>・若蜂が羽化中の有蓋蜂児枠を抜き出して、健康な蜂群を作る。</p>
<p>麻痺病 (這い出し病)</p> <p>原因: ウイルス</p>	<p>・病蜂は飛行不能で地表を這い回る。 ・1型は蜂の足や羽が震えて麻痺し、死亡。 ・2型は蜂の体毛が抜けて、黒光りする(写真の左が正常、右が病蜂)。</p> 	<p>・飼養管理 ・器具の消毒 ・女王蜂の更新</p>
<p>サック病 (サックルト)</p> <p>原因: ウイルス</p>	<p>・2日齢の蜂児が感染し、有蓋蜂児で死亡。 ・巣房の蓋が陥凹し、小孔が開く。 ・蜂児は灰~褐色~黒色へ変化し、中に液体を入れた硬い袋(サック)状になる。 ・乾燥すると、頭部が湾曲し、ゴンドラのへさきのように見える</p>  <p>(写真の上が感染蜂児、下が正常)</p>	<p>・飼養管理 ・器具の消毒</p>